2021年度 総合研究所特別研究員 研究活動報告

氏名	清田　政秋
研究テーマ	本居宣長と仏教思想との関連に関する研究
研究概要	本居宣長の学問には、その中核部分に仏教思想からの影響が見てとれる。それはどのような影響なのかを明らかにするとともに、宣長がその仏教思想をいつ頃、どのように学び、どのように著作に活かしたかを調査・追究して、従来「反仏教」の人とされてきた宣長が、仏教から大きな影響を受けたことを論証する。

1．研究活動の概要と研究成果	本年度は、宣長の『古事記伝』の基礎にある心と事と言語の関係の考え方は、京都遊学期の学問修行に始まることを明らかにするべく研究に取り組んだ。少年期から仏書に親しんでいた宣長は、２３歳で京都に遊学し、漢学・儒学とともに歌学を学んだ。宣長の学問形成において京都遊学時代は極めて重要である。京都では中世歌人が拠り所にした天台智顗の『摩訶止観』から仏教の哲学的思考を会得し、松坂帰郷後すぐに執筆した歌論『排蘆小船』に活かした。本年度は青少年期の仏書知識を分析し、そこにどのような傾向が見られるか、それを踏まえて京都ではどのような学問修行をしたのかを明らかにしようとした。
2．学術論文・学会発表等	〔論文等〕 単「本居宣長の哲学的思考と仏教教養ー新しい宣長像の構築を目指してー」（研究ノート）『佛教大学総合研究所紀要』第29号、pp. 1～10、佛教大学総合研究所（2022年3月、査読有） 〔発表〕 単「本居宣長の仏教教養—その学問と仏教思想との関連性—」日本宗教学会第80回学術大会（2021年9月7日、オンラインによる開催）
3．今後の課題	宣長の「物のあはれ」説は、俊成の「恋せずは人は心もなからまし物のあはれも是よりぞ知る」の歌がきっかけになって生まれた。この点を重視し、宣長の「物のあはれ」説と俊成の仏教的歌論『古来風体抄』との関係を明らかにすることが今後の課題である。「物のあはれを知る」とは心が物に触れて感ずることであり、そこには「物と心」の関係に関する思想がある。それはどのような思想なのかを、俊成と宣長との関係を明らかにする中で考察する。